

外部からの紹介に対する対応

水産試験場では水産業の振興を目的に、水産関連団体・加工業者を対象とした加工指導業務、小学校等を対象とした校外学習サポートや一般向けのサービスを行っている。

1. 加工指導業務

平成 16 年度、利用化学グループで実施した試験研究・技術指導・助言などは表 1 のとおりであった。過去 6 年間の件数を示したが、平成 16 年度は 41 件（前年度 18 件）だった。

主な課題別対応内容は表 2 に示したとおりである。

「食の安全・安心」に関わる消費者の関心は依然として高いが、販路開拓を積極的に進める企業、漁協加工場などから新規開発製品の貯蔵性評価や品質評価（成分特性）に関する要請が増大した。水産試験場としては、分析データの提供が販路開拓の一助となるとの見知から、さらに迅速な対応を心掛けていく。

表 1 試験研究要請件数

要請団体・組織	件 数						備 考
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	
水産加工業界	16	1	18	14	7	12	漁業者、水産加工業者
漁業者団体等	6	3	14	4	5	22	漁協、県漁連など
その他・行政	6	1	12	17	6	7	一般・行政組織・研修含む
合 計	28	15	44	35	18	41	

表 2 主な課題別試験研究、指導・助言内容

< 課 題 > 内 容	水産加工業界						漁業者・団体等						行政・一般等					
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H11	H12	H13	H14	H15	H16
< 技術開発試験 >																		
製品開発、品質・工程改良に関するもの	15	5	13	11	13	10	2	3	12	9	6	7	2	1	9	5	3	2
< 品質管理 >																		
鮮度、衛生管理などに関するもの	9	7	13	6	6	9	4	3	12	6	4	8	3	1	6	5	4	2
< 品質評価試験 >																		
製品分析、貯蔵性評価に関するもの	8	8	15	9	7	7	3	2	9	6	6	13	0	1	7	3	3	3
< その他 >																		
水質調査・養殖環境等に関するもの	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	1	5	2	2	0
合 計	32	21	41	26	27	26	9	8	33	21	18	28	5	4	27	15	12	7

注) 要請件数 1 件につき複数の課題が含まれているため、課題数は要請件数に比べ多くなっている。

表3に平成11～16年度に実施した分析項目および分析数量について、微生物検査、一般成分分析、水質分析等を含むその他の3区分に分類した。

その結果、平成16年度は前年に比べ、分析数は大幅に増加した。

表3 平成16年度実施分析項目・分析数

分析項目	分 析 数						主な分析項目内容
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	
微生物検査	68	38	128	122	54	118	一般生菌数・大腸菌群・腸炎ビブリオ他
一般成分	48	54	134	148	39	105	水分量・粗蛋白質・粗脂肪・灰分他
その他	0	1	33	0	7	75	溶存酸素・重金属類・水質評価指標など
合 計	116	93	295	270	100	298	

その他研修的業務内容（開催日：研修名（開催地区名など）：主催者・依頼者など）

平成16年

5月13日：水産加工食品製造業機能評価試験対応（西部水産開発共同組合研修生36名受講）：全国水産加工業協同組合連合会

7月7日：水産加工食品製造業機能評価試験対応（西部水産開発共同組合研修生13名受講）：全国水産加工業協同組合連合会

8月4日：水産加工食品製造業機能評価試験対応（西部水産開発共同組合研修生名受講）：全国水産加工業協同組合連合会

10月6日：島根県漁連「フィッシュフィレーセンター」衛生管理実態調査

平成17年

1月12日：マアジ生け研究会（県漁連浜田支所）

2月7～8日：和江漁協加工場衛生管理実態調査（和江漁協・浜田水産事務所）

2月24日：和江漁協加工場衛生管理実態調査報告会（和江漁協・浜田水産事務所）

3月10日：石見地区漁具漁法交換会にて「漁獲物の鮮度保持研修」（浜田水産事務所）

3月11日：水産加工食品製造業機能評価試験対応（西部水産開発共同組合研修生39名受講）：全国水産加工業協同組合連合会

2. 校外学習等

表4に小学校等を対象とした校外学習サポート等の実績を示す。石見西部地区から10校、出雲地区から2校の依頼があり、また沿岸漁業や養殖業に関する指導を行った。

表4 平成16年度の校外学習等のサポート実績

石 見 地 区			出 雲 地 区		
学校名等	学年	人数	学校名等	学年	人数
三 隅 小 学 校	5年生	43	恵 曇 小 学 校	5年生	63
原 井 小 学 校	3年生	8	朝 酌 こ と ぶ き 会		70
江 津 東 小 学 校	5年生	34	恵 曇 公 民 館		8

表4（続き）

石見地区			出雲地区		
学校名等	学年	人数	学校名等	学年	人数
佐野小学校	5・6年生	11	恵曇東小学校	3年生	26
布施小学校	5・6年生	17	ワカメ養殖技術学習会		110
上府小学校	5年生	17			
志志小学校	5・6年生	15			
松原小学校	5年生	45			
島根県立大	3年生	1			
宇野小学校	5・6年生	7			
慶尚北道海洋水産課		1			
浜田市市議会議員		20			
韓国視察団		30			

3. 問い合わせに対する対応

表5に水産試験場に寄せられる問い合わせの状況を示した。なお、加工・流通に関する問合せ件数は、利用化学グループで対応した分を除いたものを示している。

表5. 平成16年度水産試験場へ寄せられた問合せ（企画スタッフ・海洋資源グループ・鹿島分場受け）

	問 合 せ 所 属 名							計
	マスコミ	一般	官公庁	学校	水産団体	漁業者	一般企業	
環境・生態	8	5	8	2	4		7	34
漁業・資源	8	3	8	1	1	1		22
加工・流通				1	1		3	5
魚病	1	1	2		21	2		27
その他	4	9	11	1	1		3	29
計	21	18	29	5	28	3	13	117